

2009. 5. 9

# 私の好きな演奏家 第2回 **ダヴィッド・オイストラフ** **ティーン・ディクソン**

## プログラム

今回は昨年“私の好きな演奏家”と題して特集したシリーズの第2回として、ヴァイオリニスト、ダヴィッド・オイストラフ（1908～1974）と指揮者、ティーン・ディクソン（1915～1976）の演奏をご紹介します。

旧ソヴィエト出身のオイストラフは、紛れもなく20世紀を代表する巨匠ですが、豊潤な音色、格調ある響き、スケールの大きな表現、どれをとっても超一流で、私はヴァイオリン音楽の素晴らしさをこのオイストラフから教えてもらいました。今日はバッハ、ブラームスの名曲を挟んで、母国プロコフィエフの作品を聴いていただきます。

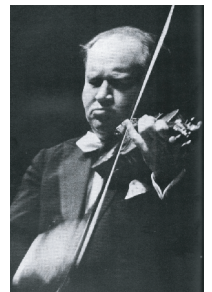
ディクソンはアメリカ出身の黒人指揮者ですが、人種差別を嫌ってヨーロッパに渡り、フランクフルト放送響の音楽監督を14年間務めトップレベルのオーケストラに育て上げた手腕は評価されるべきでしょう。正規録音が少なく、日本では全く忘れ去られた存在ですが、音楽的センスは素晴らしいものがあり、バランス感覚の良さと音楽に対する真摯な姿勢が音の流れに温かさと豊かさを生み、決して平凡な指揮者ではなかったことが分かります。今日はそんな知られざる実力指揮者ディクソンという名を頭の隅に入れていただけたら嬉しく思います。

\*\*\*\*\*

### **ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685～1750) :** **ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲ニ短調BWV1060**

ユルグ・シュフトライン (オーボエ)

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリンと指揮) ウィーン交響楽団  
(1972.6.10 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)



### **セルゲイ・プロコフィエフ (1891～1953) :** **5つのメロディ op.35b ～ 第1曲から第3曲**

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン) / フリーダ・パウアー (ピアノ)  
(1966. 5 プラハの春でのLive)

### **ヨハネス・ブラームス (1833～1897) :** **ヴァイオリン協奏曲ニ長調 op.77 ～ 第1楽章、第2楽章から、第3楽章から**

ダヴィッド・オイストラフ (ヴァイオリン)

クラウディオ・アバード指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1972.6.11 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

### **エルネスト・フロツホ (1880～1959) :** **ヘフライ狂詩曲 “シェロモ” ～ 抜粋**

レナード・ローズ (チェロ)

ティーン・ディクソン指揮バイエルン放送交響楽団  
(1974.3.21 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)



### **ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770～1827) :** **“エクモント” 序曲**

ティーン・ディクソン指揮フランクフルト放送交響楽団  
(1973.12.7 ヘッセン放送協会大ホールでのLive)

### **ジャン・シベリウス (1865～1957) :** **交響曲第1番ホ短調 op.39 ～ 第1楽章、第3楽章から、第4楽章**

ティーン・ディクソン指揮フランクフルト放送交響楽団  
(1973.2.22 ヘッセン放送協会大ホールでのLive)